

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第5回大潟区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

・報告事項（公開）

（1）地域活動支援事業の辞退について

（2）「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組について

・協議事項（公開）

（1）自主的審議事項

「大潟健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館の利活用促進について」

・その他（公開）

3 開催日時

令和3年9月16日（木）午後6時30分から午後8時30分まで

4 開催場所

大潟コミュニティプラザ 2階 大会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：五十嵐郁代、五十嵐公子、金澤信夫、君波豊（会長）、佐藤忠治（副会長）

新保輝松、関清、土屋郁夫、中野幹根、濁川清夏、俵木晴之、細井雅明、

山岸敏幸（14名中13名出席）

・事務局：大潟区総合事務所 熊木所長、柳澤次長（総務・地域振興グループ長兼務）、
平野市民生活・福祉グループ長、渡邊教育・文化グループ長、岩片班長、
水澤主任（以下グループ長はG長と表記）

8 発言の内容（要旨）

【柳澤次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【君波豊会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：佐藤忠治副会長に依頼

【君波豊会長】

それでは、3報告事項（1）地域活動支援事業の辞退について事務局から説明してもらおう。

【水澤主任】

「大潟の子どもを育てる会」が提案し、採択された「子ども体験事業」について、9月1日に辞退届が提出され受理した。辞退理由は、「新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から事業を中止することとしたため。」となっている。その結果、大潟区配分額に対して、残額が644千円となった。

【君波豊会長】

意見、質問はあるか。

（一同無し）

意見・質問等がないようなので、報告事項（1）を終了する。次に、（2）「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組についてに入る。事務局から説明してもらおう。

【柳澤次長】

資料No.1により説明。

【君波豊会長】

会議運営の「委員の責務として、全ての議題に対して各委員から必ず発言していただくような会議運営にしてほしい。」という意見に、私も反省させられた。会議日程については、次回の開催予定日をお知らせし、皆さんの同意を得て決定しているので予定が立てにくかったということはないと考える。地域協議会だよりも各委員から記事を書いていただいております、内容的にも読みにくいものではないと思っている。皆さんから意

見、質問はないか。

【佐藤忠治副会長】

調査結果の中の、否定的な意見に対しての今後の取組を列記している。例えば、大潟区では地域協議会だよりは編集委員を4人ずつで編成して、4年の任期中に全員が1回は携わるようにしている。委員の意見や写真を載せるなど読みやすく、親しみやすいよう工夫している。アンケートの回答には、評価すべき意見はなかったのかと思う。この資料では、地域協議会は色々と問題があって、改善すべき点だけが挙げられている。先進的に頑張っている地域協議会を例として挙げながら、この評価をすべきだと思う。この場で、自治・地域振興課の話を知りたい。

【柳澤次長】

ご意見として、自治・地域振興課へ伝える。

【君波豊会長】

他に質問、意見はないか。

(一同無し)

継続する問題でもあるので、気付いたときに地域協議会の場に出していただき、取り組めることは取り組んでいく必要があると思う。

次に、協議事項の(1)自主的審議事項「大潟健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館の活用促進について」に入る。これまでの経過として、7月6日に現地見学、8月19日の地域協議会の休会中に、見学を終えての意見交換をした。本日は、今後の進め方、どこに力点を置いて協議していくか等などの意見をいただきたい。また、スケジュール等を示したらどうかという意見もあった。私は、1月くらいまでにまとめられればよいと考えている。ただ、コロナ禍であり状況も変化しているので、2月下旬に予定している地域活動支援事業成果報告会までには整理して、成果報告会で参加者に発表できればいいと思う。課題としてどんなものを取り上げるかを含めて、進め方の意見を出していただきたい。前回、施設、設備の老朽化を心配する声があった。また、利用者の声が届いているのかという意見もあった。これについては、早くに取り組める課題であると思う。食堂について、「調理場が狭くメニューを増やせない。」という社長の話があったが、その辺りもひとつの切り口かと思う。

【佐藤忠治副会長】

吉川区のゆったりの郷のレストランは、入口に食品サンプルを設置している。また、大河ドラマが変わる度にそれにちなんだメニューを出しており、席に着くまでに何を注文しようかと選ぶことができる。人魚館は、そういったものがない。食品サンプルがあれば、雰囲気も変わるのではないか。そういった点では、風呂、食堂など分野別に意見を出し合ったらどうか。

【山岸敏幸委員】

人魚館社長も色々考えておられるようだが、新型コロナウイルスの感染拡大という状況の中で、まったく動けないというのが現状であると思う。私たちからも提案させていただいている部分はあるが、市の制約があることや、新型コロナウイルスが落ち着いて経済が回り始めないと意見を出してもやってみようということにはならないと思う。地域協議会で醸成しておきながら、ある程度落ち着いてから提示をするというのがいいのではないか。

【君波豊会長】

確かにそうである。住民の皆さんを巻き込んだ形で意見をまとめて、協力をいただく必要があると考える。

【細井雅明委員】

前回、土屋委員から話があったが、月1回の地域協議会だけでは十分な協議や意見集約をできるとは思えない。定例以外の時間を作り、何班かに分けて協議しなければ難しい。利用促進についてだが、よく利用する委員もいれば、私の様に年数回の利用しかしない者もいる。地域協議会委員だけで集約できるのか。どの程度の協力があるか分からないが、住民に人魚館に関するアンケートを取ることもひとつの方法であると思う。

【君波豊会長】

まちづくり大潟の広報誌で、毎号、少しずつ人魚館のPRをしていただくなどは今からでもできると思う。大潟区連絡会議でまちづくり大潟に依頼して、広報紙に少しでも人魚館の名前が出る記事があるとありがたいと思う。町内会長協議会でも定例会ごとに人魚館の話を出していただき、目を向けてもらうことも第一歩であると思う。

【関清委員】

人魚館の経営層が、住民に何を求めているかという議論はあってもいいと思う。或い

は、私たちが果たせる役割とは何かを逆に提案してもらう等の協議があってもいい。そのうえで、人魚館とは我々にとって何なのか。地場産業であるという私のような考え方もある。観光資源、住民の健康維持のための施設という側面もあり、果たす役割は小さくない。そのところでコンセンサスを得て協議したい。先ほどの食品サンプルの話だが、以前に提案して取り組んでもらったことがある。しかし、高い経費が掛かるため半年くらいでなくなった。すべてが経費節減で運営されている。しかし、人魚館で実施する利用促進のための取組やイベントも無視できない。効果はどうであったかを聞きたいと思う。そういった分析をもって、大潟区住民に人魚館にどうなってほしいか、どういった機能を期待するかアンケートを取ることが必要である。そうすることで住民に訴える根拠ができる。人魚館の経営層とがっちり組んで、共感したうえで1～2年の運動として継続的に進めていくことが決意されないといけない。半年ほどでどうにかなる問題ではないと思う。

【金澤信夫委員】

トータルで議論するのではなく、「今日は風呂の問題点。」「今日は食堂の問題点。」といったように項目ごとに議論しないと話が飛んでしまう。スケジュールによって、何回協議できるかを考え、項目ごとに進めてもらわないと話についていけないので検討を願う。

【君波豊会長】

皆さんから「私は、食堂についてこのような考えを持っている。」といった意見を出していただき、そこから何を取り上げるかという方向が出てくれば、そこを中心に協議したい。時間があまりないので、総括的な意見を出していただき、その中から集中して議論する項目を見出したいと思っていた。

【五十嵐郁代委員】

山岸委員の意見のとおり、コロナ禍であり提言しても実施は難しいと思う。逆にこの期間を利用してゆっくり議論していくことがいいのではないか。項目ごとにグループを作り、そこで議論したものを持ち寄って形にしていくのがいいと考える。ここでいろいろな議論をしてもまとまらないし、各委員の関心がある部分も違うと思う。時間も掛かると思うので、勉強会やグループ討議の時間を地域協議会以外で設定することも必要である。

【山岸敏幸委員】

前期の自主的審議事項で、観光協会に提言をした内容はこの程度であったのかと感じた。観光協会と協議する場を設けたり、どうやって鵜の浜温泉に人を呼び込むかということも協議することで、最終的に人魚館の利活用に繋がっていく内容だと思う。人魚館だけの問題ではないと思う。観光協会に提言をした内容は、協議しようと思えばいつでもできる。こういったことも進めていって、どうやったら鵜の浜温泉を活性化させられるか、人魚館を元気にできるかを協議するのも一つの方法だと思う。

【君波豊会長】

前期の自主的審議事項は、コロナ禍で最後の地域協議会が開催されない状態の中、急遽まとめた。また、コロナ禍で聞く耳を持ってもらえないだろうと、観光協会へも少し時間をおいてから提出した。これから機会があれば前期の自主的審議事項の内容も生かしていただければいいと思う。また、グループ討議にした方がよいという意見がいくつかあった。皆さんから賛同いただけるのなら、テーマごとにグループ討議にしたいと思う。グループ討議にすると集まっていただく回数も増える。そこを承知しておいていただきたい。まずは、討議する焦点を絞りたい。食、風呂の改善などテーマを3つくらい出して、3グループに分かれて協議していく方法がよいと思う。

【佐藤忠治副会長】

まず人魚館の社長から来ていただき、人魚館の以前の状況とコロナ禍での現状について話を聞きたい。新聞で第3セクターの経営状況が掲載されていたが、人魚館は昨年黒字であったが、今回は厳しい状況である。人魚館の報告を受け、質疑応答をしてから協議に入るのがいいと思う。

【五十嵐郁代委員】

話を聞くことはしなくていいと思う。委員も視察をしているし、これまでの間に十分情報は得ている。今後どうしていくかを考えるので、話は聞かなくてもいい。

【佐藤忠治副会長】

私は、今後どうするのかを聞きたい。

【五十嵐郁代委員】

いずれ必要になるかもしれないが、現時点では、委員間で協議していったら話を聞いてすり合わせることでいいと思う。

【土屋郁夫委員】

協議会としての意見を誰に出すのか、我々の声はどのような性質のものなのか。例えば、サポーターとしての声を届けるのか。そこの焦点が合っていない。経営は、経営者が責任をもってやるものなので、経営戦略としてどういう展開をしていくかは経営側が持っているが、意見を届けることは誰でもできる。我々が、意見を届ける立場に徹するのであれば、五十嵐委員の言うように来ていただかなくてもいい。但し、私は経営戦略としてこれから数年先までどうしていくかを聞きたい。普通であれば、「こういった苦境だからこういうことをやっていく。」というものを経営者として持っていないと経営は成り立たない。上越市主催の観光地域づくり実践未来塾に参加して、えちごトキめき鉄道株式会社の鳥塚さんの話を聞いた。いろいろ手を打とうとしていて、イベントも地域と手を組んでやろうとしている。やはり経営側の姿勢を聞きたい。

【俵木晴之委員】

私も新聞に掲載された経営状況を見た。コロナ禍で赤字が膨らんだというのは事実ではあるが、実際問題それだけではない。鵜の浜人魚館は補填をしてもらって、やっと黒字という状況であり、一般企業であれば倒産である。人魚館の中で、社長をはじめ全従業員が一つの方向性を持っていないとバラバラになる。まず、人魚館の方向性を経営者から聞いて、それに基づいて協議していく方法がいいのではないかと。

【山岸敏幸委員】

私も経営者の話を聞くことに異論はない。しかし、これまでの経過では地域協議会の中でもハード面だけ追求されている部分が多い。ハード面は、社長が来られてもどうにかできる問題ではない。ソフト面の話をすることであれば社長の話を聞くことに意味がある。どうにもできないハード面に時間をかけて議論している傾向にあるので、それらには触れないという前提で話を聞くことには賛成である。

【君波豊会長】

設備のことではなく、これからどうしていくのかの話をお聞きしたいと思う。公の施設である人魚館が10年後にも存続しているかという瀬戸際に来ている。我々を含めた大潟区住民の姿勢が違った結果をもたらすのではないかと。そういった意気込みを見せたい。

【関清委員】

ハード面の話になるが、ウォータースライダーは当初から直す予定はなかった。今夏は、県外の子どもたちが楽しむことができなかったことでマイナスの評価になってしまった。上越市が、観光資源のひとつと認識し、経済的な意味での観光資源として人魚館を中心とした鵜の浜温泉街の活性化が必要であるというならば、ハード面をなぜ予算化しないのかと理屈としては言えると思う。また、風呂、食堂など細かく項目ごとに議論しようと言っているが、委員だけでは取ってつけたような話しかできないと思う。前期の自主的審議事項で、観光協会に提言書を出しているが、観光協会にどのように受け止められて、そこで何をすべきかをお互いに認識していく必要がある。地域協議会として提言したのであるから、そこを明らかにし、そのためにどうするのかを観光協会の方とお会いするとか、観光協会がどのように受け止めて、どのように進めたのか、或いは何もしていないのか、どのような問題意識として共有、共感できるのかを我々も高い意識をもって、そこをスタートにするべきではないか。

【君波豊会長】

観光協会の事務局長と面会したことは、以前の地域協議会で報告し、観光協会もいろいろと取り組んでいることを皆さんに伝えた。提言書を受け取り、やれることは取り組んでいるという話だった。多少なりとも、我々の提言を取り入れてもらったと思う。

さて、個々に具体例を挙げて、グループ分けをする方法もあるかと思うがどうか。

【土屋郁夫委員】

次回、経営側や関係する方の話を聞いておきたい。自主的審議事項のテーマとなっていることを知っているとは思いますが、こちらの意向をきちんと伝え、短時間でもいいので意見交換をしたらどうか。関委員の意見も十分わかるが、観光全体となると地域協議会だけでは手に負えないと思う。

【俵木晴之委員】

賛成である。

【君波豊会長】

人魚館を運営しているのは地域活性化センターである。地域活性化センターにとって、市やJ-ホールディングスが壁になっていないかという心配があった。地域活性化センターでやりたいことがあっても、「上の方で壁があって思うようにいかない、もう少し思

ったようにやらせて欲しい。」という考えもあるのかもしれない。そういった声が聞かれれば、「声を生かして欲しい。」と我々が働きかけることもできるのではないか。地域活性化センターに来ていただき、意見交換するということでよいか。

(一同了承)

【俵木晴之委員】

次の機会でもいいが、観光協会と温泉組合からも来ていただければよいと思う。温泉街の話も出るかもしれないし、どんな話が出るか分からない。

【君波豊会長】

今回は人魚館を対象にしている。鶉の浜温泉の活性化の時には人魚館社長にも話を聞いている。他に進め方等の意見はないか。

【関清委員】

市は、どのような立場なのか。

【熊木所長】

自主的審議事項として地域協議会委員が自主的に審議するということで進めている。テーマは人魚館の利活用促進についてであり、経営について議論するものではないと思う。大潟区に住む地域の住民として、人魚館の利活用を促進していきたいという気持ちでテーマを決められたと思う。経営方針等を議論するものではないと認識している。

【君波豊会長】

それでは、人魚館社長に次回来ていただく。他に意見はないか。

【新保輝松委員】

利用促進するため、いかにして人を呼ぶかだと思う。人が来なければどうしようもない。人に来てもらうことに限って議論するべきだと思っていた。そのためにどうするか
の考えが出てこないため発言できないでいる。そんな中でも、自分はどのような時に人魚館や類似の温浴施設を利用したか思い返してみた。以前、職場の仲間と温浴施設を利用して囲碁大会を実施した。囲碁をして、昼食を取り、場合によっては1泊してくるといった内容であり、それがとても楽しく過ごせた。囲碁に限るわけではないが、そのようなイベントを提案していくことを考えるべきだと思った。

【君波豊会長】

利用者が増えれば、売上げも上がっていく。そうなっていけば市に負担がかからなく

なる。市の、「負担がかかるので施設を多く持っていたくない。」という考えは分らないではない。過去の資料を見ると、利用者が9万人を切ったところから経営がおもわしくない状態になっている。我々としては、9万5千人から10万人の利用者数にしていきたい。そうすることで、1人当たりの公費負担を減らしていくことができ、人魚館が大潟区にとって必要な施設であるという認識になっていくのではないかと。利用者を増やすために我々はどうすればよいかという論議が必要である。

【佐藤忠治副会長】

前期の自主的審議事項「鵜の浜温泉の活性化について」の時には、意見書をどこに上げるかについて議論した。本来なら、市長に「鵜の浜温泉の活性化に対して、市はもう少し助成をしてください。観光面で指導を下さい。」等の意見書を出すのが通常である。前期の時は、会長、副会長が温泉組合、観光協会、商工会、旅館等に個別に現状などを聞きに行った。それを地域協議会で報告して意見をまとめた。最終的に観光協会に提言書という形で提出した。それ以前の自主的審議事項「大潟区の魅力発見・発信」では検討委員会を作り検討した。最初はグループ討議をしていたが、まとめていくことが大変であったため、7人の検討委員会で協議し、まとめた意見を地域協議会で説明し決定していった。その時も市長に意見書は出さず、まちづくり大潟の協力を得てDVDを作成した。やり方は色々ある。議論をしていく中で、意見書をどこに出すかも決めていけばいいと思う。議論してみないと分からない部分もある。今回、意見書を市長にだすのか、鵜の浜人魚館に出すのか協議しないと分からない。或いは、意見書ではなく、大潟区住民に対して利用を呼び掛けるアピールをするなど様々な方法がある。これまでのやり方を参考に、次回の地域協議会で進め方を決定してもらいたい。大勢での議論は大変である。

【君波豊会長】

今回は、人魚館の社長に来ていただく。また、次回までに焦点にして議論するべき点や進め方についての考えを各委員がまとめてきていただきたい。また、人魚館や近隣の類似施設を利用するなどして情報収集に努めていただきたい。

【岩片班長】

第6回地域協議会を10月28日（木）の開催としたいと考えているが、人魚館社長の都合を確認してから決定することでよいか。依頼するにあたり、お話しいただく内容

は、現状、コロナ禍以前と現在との比較ということによいか。

【君波豊会長】

今後どのように運営していくかも加えてほしい。

【関清委員】

営業をどのような形でやってこられたかと、利用者の反応はどうであったかをお聞きしたい。そして構想を聞きたい。

【君波豊会長】

今後どのように運営していくかということか。

【関清委員】

そうである。

【俵木晴之委員】

そちらの方が大事である。現状は、ある程度分かっている。

【佐藤忠治副会長】

集客増に向けてどのようにしていくかである。

【岩片班長】

お伝えする。

【君波豊会長】

以上で協議事項を終了する。次に、5その他に入る。委員から連絡などあるか。

【佐藤忠治副会長】

先日、柿崎区地域協議会の傍聴をしてきた。終了後、柿崎区地域協議会長と話をした。例年、9月から10月に開催している頸北地区の地域協議会印の合同研修会を新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、来年1月以降の開催にしたいとのことであったので報告する。

【君波豊会長】

大潟区連絡会議について、9月1日に今年度の1回目の開催を予定していたが、市内で新型コロナウイルスの感染者が急増したため中止となった。地域協議会の動きを資料にまとめて各団体に届けた。

大潟区地域協議会の視察研修についてだが、自主的審議事項の協議の参考とするため安塚区のスマイルリゾート、吉川区のゆったりの郷、名立区のうみてらす名立等を検討

している。皆さんの意見を聞いてから日程調整をしたい。意見等はあるか。

【俵木晴之委員】

いつ頃実施する予定か。

【岩片班長】

はやくても11月以降である。バスの確保、相手との調整の時間が必要である。

【君波豊会長】

他に意見等はないか。

(一同無し)

では、事務局に場所、日程等を調整してもらって決定してよいか。

(一同了承)

事務局から連絡事項はあるか。

【柳澤次長】

第6回地域協議会を10月28日(木)午後6時30分から開催する予定である。鵜の浜人魚館社長の都合により変更となる場合があることを承知しておいていただきたい。

【佐藤忠治副会長】

会議の閉会を宣言

9 問合せ先

大潟区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL: 025-534-2111 (内線 201、216)

E-mail: ogata-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。